

農業と科学

1979
7

GHISSO-ASAHI FERTILIZER CO., LTD.

＜創立10周年記念特集・第1部＞…その1

創立10周年を迎えて

チッソ旭肥料株式会社
代表取締役社長

三戸二郎

当社は、7月1日、創立10周年を迎えました。ご高承の通り、当社は、チッソ(株)と旭化成工業(株)が、それぞれわが国で初めて開発致しました「磷安系」と「磷硝安系」の高度化成肥料、および緩効性チッソ肥料「CDU」などを更に大きく発展させることにより、わが国農業の近代化に広く貢献したいという願望のもとに、去る昭和44年、両社の肥料事業部門を統合して新発足致しました。この間、当社肥料事業の発展につきましては、皆様方から心温まるご支援をいただき、お蔭様で、当社の肥料は全国各地の多岐にわたる農業分野に根強く、巾広く普及し、ご好評をいただいております。

本誌も、創立10周年を記念して、7月号を特集号として発行することに致しました。本誌は非常に息長く発行が継続され、また、農業・肥料技術関係の貴重な資料・文献としてご好評をいただいております。発行責任者として、これに勝る喜びはございません。これもひとえに毎号、企画・執筆面でご協力、ご指導下さいました諸先生、および長年にわたってご愛読いただき参りました皆様方のご支援の賜と、心から御礼申し上げます。

顧りみますと、この10年間、日本の経済は昭和48年の石油ショック、および最近では、あまりにも急激な円高傾向等を契機として大きく変ぼうし、産業構造の変革が加速されております。農業・肥料業界においても例外ではなく、幾多の試練を受けて参りました。農業界では米の過剰、水田利用再編対策、オレンジ・牛肉等に代表される輸入増加への外圧等々により、農業生産の再編成、構造の改善、生産性の向上等が緊急且つ長期的な課題として、その解決を迫られております。一方、肥料業界においても、アンモニア・尿素・磷酸の需給バランスが崩れ、その対策として、過剰設備の休廃棄が決定されました。また、磷鉱石、加里等の値上がり、磷酸等2次製品の安値輸入、BB肥料工場の稼働等々、肥料の原料・生産に関する構造的にむずかしい諸問題を抱えております。

更にまた、去る6月末に開催されましたOPEC(石油輸出国機構)総会は、石油価格を実質20ドルと決定致しました。私たちは、嘗て経験した48年の石油ショック以上に厳しい影響を、長期的に受けることを覚悟しなけ

ればなりません。現に、東京サミットにおいては、エネルギー問題が緊急且つ最大の問題として論議され、石油輸入量の抑制が合意されました。高価格エネルギーという非常にむずかしい現実の中で、私ども肥料業界は、これまで以上に厳しい激動と試練の時代に直面しているわけでございます。

農業界におきましても、今後ますます農業生産性の向上、合理化、生産構造の再編成等が要請されることであろう。このような農業の要請にどのように対応し、寄与できるかが、私どもに課せられた最大の問題であろうと存じます。

幸い当社は、当社独自の技術によって開発致しました「CDU」、「磷硝安加里」などの、すぐれた特徴を持つ肥料を普及するとともに、最近におきましては、施肥の省力化と品質の向上に役立つ「被覆磷硝安加里」や「被覆尿素」などの「コーティング肥料」をも開発し、普及に努めて参りました。

当社と致しましては、当面する事態の重要性を直視し一段と技術力を結集し、新肥料の開発、栽培技術の研究に努めるとともに、「農業と科学」も、農業・肥料関係の技術誌として、ますます誌面を充実して、皆様方のご期待に添いたいと考えております。

皆様方のご健康とご繁栄をお祈りし、創立10周年のご挨拶と致します。

＜創立10周年記念特集号目次＞

＜第1部＞

- \$ その1 創立10周年を迎えて……………(1)
チッソ旭肥料株式会社 三戸二郎
代表取締役・社長
- \$ その2 水田利用再編対策の現状と
今後の方針……………(2)
農林水産省農蚕国営局 中村晴彦
農蚕企画室・企画官
- \$ その3 肥料流通の現状と課題……………(4)
全国農業協同組合連合会 田村吉貞
肥料農薬部・無機肥料課長
- \$ その4 転換期農業の指針たれ!!……………(6)
全国農業協同組合連合会顧問
「農業と科学」編集委員 黒川 計